





### 10 木棧綠窟窿

木棧道：横木の道。

グラウンドのそばに茂る林の下に横木を並べた棧道があります。学生は雨の日でも、この道を行けば、泥道に足をとられることがありません。また、木棧道の下は人に踏まれることがないので、樹木の種が自然に芽を出すことができます。

木棧道の両側はまるで森のようです。たくさんの草木が様々な方向に懸命に成長している姿を見ることができます。たとえば、白千層（カユプテ）や大葉桜（オオバユウカリ）や

観音棕竹（カンノンチク）や名の知らない花、草などです。木棧道のベンチに腰掛ければ、大自然の微妙な変化を感じます。

### 13 占ト無患子

無患子＝ムクロジ：原産地は台湾、中国と日本とインドです。落葉喬木で、葉が互生です。高さは15メートルに達します。皮は黄褐色で、滑べらかです。石鹸が発明される前、ムクロジを石鹸代わりとして使用しました。現在、自然環境保護のため、ムクロジから作った石鹸や洗剤などが市販されます。

冬になると、ムクロジの黄金色の葉が落ち、キャンパスは冬景色となります。ムクロジの生命力はとてたくましく、どんな土壌でも、水はけがよければ、成長します。砂漠化の防止にとでも適した木です。ムクロジはほかに、数珠に用いられ、パイワン族の古い道具にも使います。



### 16 紅葉動相思 錫蘭橄欖

錫蘭橄欖＝セイロンオリーブ：常緑喬木で、原産地はインド、スリランカです。葉には鋸歯があり、互生で、楕円形です。高さは15メートルに達します。老いた葉は落ちる前に赤、オレンジ色になります。7月から9月まで花が咲きます。雄蕊は20～35枚、12月から翌年の2月まで実がなり、実の外形はオリーブに似て、水分が少なく、甘く、酸味があります。

セイロンオリーブの樹形は優美で、枝と葉が茂っているので、日光をさえぎるのに適しています。セイロンオリーブは最初に日本人が果樹として、台湾に輸入しましたが、今は街路樹や観賞木として、広く栽培されます。

セイロンオリーブの葉が赤になるのは葉の老化にともない、葉基部が隔離作用を起こし、葉と木の間の水分と栄養がなくなり、緑素が分解されるためです。



### 19 黒冠麻鷺來

黒冠麻鷺＝ズグロミゾゴイ：低海拔で湿気のある森で活動している鳥です。好むのは蚯蚓や昆虫です。

元学長私邸には樹齢の古い樹木がたくさんあります。屋敷内では除草剤はいっさい使っていません。だから、屋敷内の土がとても柔らかく、落ち葉の養分をたくさん吸収しています。こんな条件のおかげで、屋敷に黒冠麻鷺の大好物である蚯蚓がたくさんいます。そして、ズグロミゾゴイは食べ物があるので、校内に飛んできて、ここに棲み着きました。ズグロミゾゴイは大同大学の誇りとも言えます。

ズグロミゾゴイは20年ほど前に珍しい鳥でした。近年、環境保護が進み、ズグロミゾゴイはバードウォッチングの主役になっています。わが大学にはズグロミゾゴイの家族がいます。雄雌がズグロミゾゴイは夫婦になった後、雄は枯れ木を拾って、大樹の上に巣を作り、雌とともにヒナを育てます。産卵してから、幼鳥が巣を離れるまで、1ヶ月あまりかかります。

校内で彼らが蚯蚓や昆虫を食べている姿をよく見かけます。満腹したズグロミゾゴイがよく首を左右に振ります。とてもかわいい姿です。



### 11 繽紛春日暖

台湾山桜＝タイワンヤマザクラ：自然に生えている野生品種の一つで、落葉喬木です。葉は互生で、卵形あるいは長卵形で、葉の縁側は鋸歯です。冬には葉が落ち、1月から4月まで花が咲きます。花の色は紅色やピンクなどあります。雄蕊が多数で、満開の時、葉はありません。山桜の花びらと実はたくさんの鳥や昆虫の大好物です。

台湾山桜は春の訪れを告げるものとして、親しまれています。桜と言えば、日本を思い浮かべます。満開の桜は豪華に花をつけています。日本人は桜を日本の武士道精神に誉えています。大同大学元学長の林挺生先生は何回も日本から、桜の品種を輸入し、大学で様々な栽培方法を研究し、やっと台湾平地の気候に適した桜の品種開発に成功しました。校内の校園には山桜のほか桃と杏の木もあります。毎年芸術シーズン開幕式がここで行われています。



### 12 樟老樹參天

樟樹＝クスノキ：くすのき科の常緑喬木です。日本、中国南部とベトナムが原産地です。円形樹冠で、皮は暗褐色です。葉は互生、革質で、光沢があります。葉を揉むと、樟腦の香気があります。夏に薄い緑の小さい花が咲き、成熟した実は紫黒色になります。クスノキは器具材になり、樟腦を採り、薬用にもなります。

校園の両側に樹齢が120年を超えるクスノキが各1本あります。この2本の巨樹が大きいため、全体を見ることができません。でも、この2本のクスノキの下、クスノキの生命力のたくましさを感じます。



### 14 銀杏憶華年

銀杏＝イチョウ：「公孫樹」、「白果樹」ともいわれます。原産地は中国大陸と日本です。落葉喬木で、扇形扇状の葉は秋になって黄葉します。銀杏の実が「ぎんなん」です。「白果」ともいいます。この「白果」は食用になり、鎮静や咳止め効果があります。

イチョウはとても古い植物の一つで、北半球の主要な樹種です。氷河期に古いイチョウの多くは恐竜とともに消滅しましたが、現代イチョウはイチョウ科植物の中で唯一生き残ってきたものですから、「活化石」ともいいます。イチョウの木は高さが20から30メートルに達しますが、非常にゆっくり成長します。祖父の代に植え、孫の代でその実を収穫しますから、「公孫樹」ともいいます。



### 15 玉蘭散幽香

洋玉蘭＝タイサンボク：常緑喬木。原産地は北米南部です。葉は卵状楕円形で、高さは10から20センチに達します。また、葉には光沢があり、葉の反対側に毛があります。花は大きく白く、この直径は20センチに達します。満開の時、香気があふれます。タイサンボクの姿はとも美しく、汚い空気にも強いので、庭園、公園や校内でよく見かけます。

タイサンボクは木蘭科開花植物の中でもっとも古い植物です。花の構造は一億年前の化石とまったく同じです。言い換えれば、私たちが今、見るタイサンボクの花は一億年前のとまったく同じ花です。

校内経営棟の前にタイサンボクが1本あります。春の終わりに、初夏から、蟬の鳴き声が聞こえるまで、花が咲きます。経営棟3階に登って、下のタイサンボクを見れば、タイサンボクの花はまるで白い蓮の花のようにきれいです。



### 17 紫檀倚尚志

インド紫檀＝インドシタン：落葉喬木で、原産地はインド、フィリピン、マレー半島です。葉は奇数羽状で、複葉です。小葉は互生です。高さは20メートルに達します。皮は黒褐色で、幹がまっすぐそびえます。花冠は黄色で、花びらは蝶形で、香気があります。高級家具に用いられます。

尚志教育研究館のそばに樹齢が100年を超えるインドシタンが2本あります。元は尚志教育研究館の場所にありましたが、この建物を建てる時に現在の場所に移しました。インドシタンはたくましく、樹形がとても整い見事です。インドシタンには四季の特色があります。春になると新葉の芽が出て、初夏に香ばしい黄色い花は華やかに咲き、こずえに実をつけ、冬になると葉が落ちます。



### 18 蓬萊花木美

台湾欒樹＝タイワンモクゲンジ：台湾特有の原産常緑喬木です。高さは15メートル以上に達します。日光の強いところが好きで、葉は互生です。花冠は黄色で、花びらは五つあります。実は未熟前は紅褐色で、成熟後に黒色に変わり、種は球形です。

タイワンモクゲンジは台湾原産の観賞樹です。台湾以外で見ることがありません。台湾特有の木ですから、私たちは親しみを感ずります。春になると、緑の葉が出て、夏に、黄色の花が咲きます。秋になると、赤い実がなり、冬には葉が全部落ちます。タイワンモクゲンジは四季の移り変わりに伴い、木の色が変わっていきます。ですから、タイワンモクゲンジは一年中見ておくことはありません。



### 20 好鳥奏清音 鳥の歓迎の歌

来訪の皆さんは中山北路の正門に入ると、鳥の歓迎の歌を聞くことができます。緑繡眼（メジロ）、麻雀（スズメ）、朱頸斑鳩（カノコバト）は花の中を飛び回ったり、白頭翁（シロガシラ）は「チョコリ、チョコリ」といった鳴き声で、皆さんを歓迎します。皆さんのご来訪を楽しみにしています。



## 大同構内と周辺の特徴ある建物

### 尚志教育研究館

尚志教育研究館は大同大学の創立者林尚志氏の生誕百年記念のため、黄宜章、蕭義雄などの建築士、技術者がアメリカのパージニア大学のROTUNDA館を参考に1998年に建てました。この建物はアメリカ第三任・第四任大統領のトマス・ジェファソン氏が引退後、パージニア大学のために設計した学術村にあって、ローマ古代建造物をまねています。

円形建造物は教育の「神聖」と「荘厳」を象徴しています。正面にある6本の柱は大同の6つの永続経営の精神を象徴しています。「性能優越」、「品質確保」、「出荷時間厳守」、「サービス第一」、「誠心誠意の商売」と「収支のバランス」です。外壁は福建省安溪の硬い花崗岩を使用し、そして、イギリスから購入した「民主工業の鐘」も据え付けられています。

5階建ての研究館には1階に行政部門、VIP室と会議室があり、2階に学長室、会長室があります。3階から5階までは円形コンサートホールで、芸術シーズンにコンサートや特別講座の会場とします。また地下1階、2階は多機能の教室とし、地下3階と4階は駐車場とし、使用されています。わが大学の学生たちはこの研究館を「白宮」と呼びます。

### 林挺生学長私邸

この学長私邸はもとは大同前身「協志商号」の創業者林尚志氏の住んでいたところです。1940年代に当時「協志商号」社員の廖欽福氏が設計したものです。この私邸の玄関口は庭園の南東側にあり、前の庭園に小さな環形花園があります。また、この私邸は、北半分が洋式で、南半分が和式で、「和洋折衷」という住宅スタイルです。

洋館は2階建てで、前の林挺生学長の事務室です。1階は和風の建築で、雁行回廊と庭園を組み合わせた、橋や石や林木による幽玄の美を表しています。一見の価値があります。

林挺生学長は植物が大好きで、樹木を植えると、伐ったり、移植などすることなく、数十年、心をこめて樹木の手入れをしました。現在、林挺生学長私邸は老樹が茂り、緑にあふれています。

### 近くの文化遺産

わが大同大学は大龍峒文化地域にあります。台北市では古くから開けてきた地区です。近くには文化遺産がたくさんあります。例えば、一級古跡の圓山遺跡、二級古跡の大龍峒保安宮、三級古跡として、台北市孔子廟、陳悅記住宅と台北故事館があります。圓山公園は中山一公園とも言われて、台湾では一番古い公園です。中山北路は日本殖民時代に「勸使街道」と言い、台北城から圓山台湾神社へのメインストリートでした。また、臨濟寺は1899年に台湾を占領した時に死亡した日本人の慰霊のため、建てられたお寺です。それらの歴史遺産はすべて、わが大学の教養教育を推進するには欠かせない貴重なものです。

## 大学を色どる人々

### 学校創立者 林尚志先生 (1983-1971)

1983年台北市生まれ、1915年台北工業講習所土木科第1期を卒業しました。土木建設業の「協志商号」を創立した時、設備機器は貧弱でしたが、先生は苦勞して経費を切り詰め、8年を経て業績を確立、多くの顧客の信頼を得ました。

「協志商号」が引き受けた工事は利益が出なくても先生は懸命に努力して誠心誠意、工事を完成させました。例えば、新店溪堤防の工事は当初莫大な赤字が出ましたが、先生は責任をとって予定通り完成しました。社会から高く評価され、また、これ以降指名工事も増えました。

1942年に林尚志先生は人材を養成するため、自分の財産の80パーセントを「協志工業振興会」に寄贈し、大同技能養成所（現大同高校の前身）と大同工業専門学校（現大同大学の前身）を創立しました。

### 首任学長 林挺生博士 (1919-2006)

林挺生先生は台湾大学時代から、優秀で、大学を卒業した後、大同鉄工所の社長に就任しました。先生は第2次大戦後の台湾は工業基盤が弱く、海外でも高く評価されました。先生は台湾工業製品輸出のパイオニアで、工業発展を促進、国民生活レベルを高めました。

林尚志先生は自分の財産を寄贈し、「建教合一、研究発展」を主旨に学校を創立しました。先生は学長、兼教員とし、積極的に産学協働を推進し、産業界の多くのエリートを養成しました。同時に中日や欧米の名著を学び、経済、経営、教養及び語学などの教材を作り、大学では「国富論」及び「経営学」の講義をしました。先生は教育界でもよく知られています。

先生は学校教育に力を尽くしただけでなく、民主自由にも強い関心を持ち、重要な公職にも就きました。先生は「工業を持って国に報いる」という使命感を持ちながら、民のために台湾の経済発展と人間を基にした教育を推進し、国を豊かにしました。後世の人々の模範となっています。

### 文学大師 梁實秋博士 (1903-1987)

林挺生学長は梁實秋の文才を慕い、1949年に先生が梁實秋先生が台湾に到着すると、自分の徳恵街一号の日本式建物を梁實秋先生に貸し、梁實秋先生を大同大学に招聘し、中国語、歴史、英語などの講義を委ねました。後に、梁實秋先生は大同大学の役員と理事長を務めました。協志出版社は梁實秋先生の重要な著作である『英国文学史』、『英国文学選』や先生が翻訳した『ベネチアの商人』などを出版しています。

### 客家文学大師 吳濁流先生 (1900-1976)

吳濁流先生の文章は明晰で、また、台湾の将来に強い関心を持っていました。先生は台湾の228事件が台湾の社会に大きな衝撃を与えたことの重大さを感じ、日本語で『夜明け前の台湾』の随筆を発表しました。台湾青年の希望は「工業教育」にあると主張し、林挺生学長が共感し、吳濁流先生を学校の副学長として、招聘しました。先生は任期の間に小説も発表しています。

### 台湾文史学者 莊永明先生 (1942-)

莊永明先生は台北市大稻埕生まれ。先生は小さい時から台湾文化、歴史に強く興味を持っていました。先生は大同で26年間経理を担当しながら、時間があれば、台湾の研究を続けています。大同雑誌が連載した「台湾の第一」では莊永明先生が多くの民衆の間で「台湾の第一」に解釈した古い謠や歌は多くの人々に知られています。先生は2006年に台北市第8回文化賞を受賞しました。